近森リハビリテーション病院　理学療法科

部長　高芝潤

はじめに

2024 年は 1 病棟 15 名体制（1 ユニット 7～8 名）7 ユニットを基本とし、理学療法士一人あたりの 1 日の取得単位 18 単位を目標とした運営を行った。また、各ユニットにつき主任 1 名、もしくは療法士長 1 名の管理体制をとり、ユニットの運営を行った。また、新人が 4 名入職し、引き続き教育体制充実と学術活動の強化を模索した。

運営・取り組み

4 月からの人員は入院 52 名、外来 2 名の体制で運営を開始となり、スタッフ一人当たり 18 単位の訓練実施を目標に進めた。

病床稼働率は、平均 84%程度で推移しており、提供単位数を充実するべく調整を行った。結果として、患者一人当たりの実施単位数は、平均で 3.3 単位に留まり前年度と同等（前年度 3.3 単位）となった。7 ユニット体制で病棟の人員配置は中途退職者もありながら、年末に向けて総単位取得は増加傾向であり、サービスは充実していた。また、教育面では日本理学療法士協会の新生涯学習制度に準じた院内研修を法人内で年間 7 回の研修会及び 4 回の症例検討会を計画的に実施することができた。また、学術活動については、神経理学療法学会へ 2 演題、リハケア合同研修大会に 3 演題の発表を進めることができた。

実　績

新規入院患者のうち、理学療法を実施した患者の疾患内訳では、例年と比べ脳血管疾患が 68%、廃用症候群は 1 %に減少、運動器は 31%と大幅に増加を認めた。（図 1）。「月別述べ入院患者実施単位数」は平均 15163 単位と 2023 年(14420 単位)と比較し 5%程度増加していた（図 2）。また、患者の 1 人あたりの実施単位数は 3.3 単位を取得し、例年通りではあるが患者一人あたりへの関わりは平均 1 時間以上を維持しており、訓練量を維持し訓練の質も担保できていたと考える。

外来の「月別述べ外来患者実施単位数」は、平均 190 単位と 2023 年度（223 単位）と比較し実施単位数が減少しており、患者数の減少を認める（図 3）。

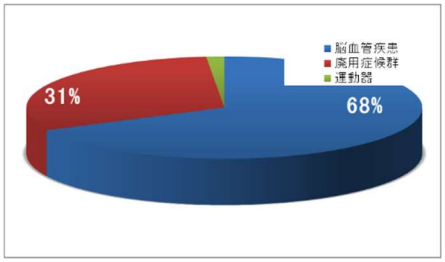

図 1　年間入院患者疾患内訳

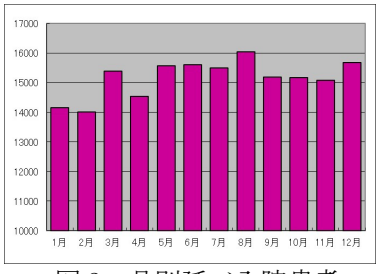

図 2　月別延べ入院患者実施単位数

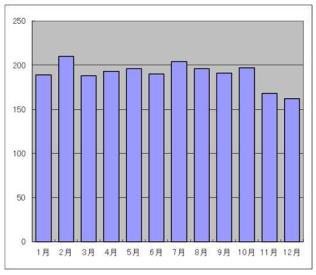

図 3　月別延べ外来患者実施単位数

おわりに

2024 年は 1 病棟 15 名体制・7 ユニットの運営を基本とし、スタッフ 1 人あたり 1 日 18 単位の取得を目標に取り組んだ。病床稼働率は平均 84%を維持し、患者 1 人あたりの実施単位数は 3.3 単位と前年と同水準ながら、総単位取得数は微増した。退職者が出る中でもスタッフ一丸となり、サービスの質を維持・向上できた。教育面では院内研修や症例検討会を計画的に実施し、学術活動も活発に行った。2025 年もより質の高いリハビリを提供できるよう取り組んでいきたい。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
脳卒中発症後３ヵ月経過し開始となった長下肢装具歩行練習の効果	中川　大種	第 37 回高知県理学療法学会	3 月 24 日 高知
内反尖足患者の体重免荷トレッドミル歩行練習；短下肢装具から機能的電気刺激への遷移による効果比較	岡林 雅樹 安村広之、高芝潤、森岡周	第 22 回日本神経理学療法学会学術大会	9 月 28～29 日 福岡
失行に対するジェスチャー課題の効果；一症例に対するチーム医療戦略	江口 智博 高芝 潤、吉本 翔真、大石亜祐未、森岡 周	第 22 回日本神経理学療法学会学術大会	9 月 28～29 日 福岡

シンポジウム

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
「移動」に関するチームアプローチ	和田　仁美	回復期リハビリテーション病棟大会　第 44 回研究大会 in 熊本	3 月 8～9 日　熊本